

1. 略歴

- 1985年3月 九州大学文学部史学科朝鮮史学専攻卒業
- 1987年3月 九州大学大学院文学研究科（史学専攻）修士課程修了
- 1989年3月 九州大学大学院文学研究科（史学専攻）博士後期課程中途退学
- 1989年4月 九州大学文学部助手（～1992年3月）
- 1992年4月 久留米大学文学部専任講師（～1995年3月）
- 1995年4月 久留米大学文学部助教授（～1996年3月）
- 1996年4月 九州大学文学部助教授（～2000年3月）
- 2000年4月 九州大学大学院人文科学研究院助教授（～2002年3月）
- 2002年4月 東京大学大学院人文社会系研究科助教授（～2007年3月）
- 2007年4月 東京大学大学院人文社会系研究科准教授（～2015年3月）
- 2015年4月 東京大学大学院人文社会系研究科教授（現在に至る）

2. 主な研究活動

a 専門分野

朝鮮中世・近世史

b 研究課題

朝鮮王朝（1392-1910）時代の水運史や財政史・経済史などを中心に研究している。現在の主たる研究課題は、(1) 朝鮮前期漕運制研究、(2) 朝鮮中世・近世海事史研究、(3) 朝鮮中世・近世「水環境」研究、(4) 朝鮮時代財政史研究、(5) 朝鮮時代古文書研究などである。(1)の漕運制とは朝鮮時代における官営の税穀船運機構であり、朝鮮初期におけるその整備・変遷過程や運営実態等を明らかにする作業に取り組んでいる。(2)は(1)から派生したもので、朝鮮の前近代史を「海」とのかかわりで再構成するという問題意識から、済州島民の海難関係記録の分析を通じて彼らの海上活動の実態や異国への漂流・漂着をめぐる諸問題、朝鮮時代の海防体制や「水賊」などについて研究している。(3)は(2)をさらに発展させ、広く人と「水」とのかかわりを明らかにしようとするもので、当面は漢江をはじめとする河川の管理・利用という側面を主たる対象として、水運だけでなく、渡船や漁撈、さらには治水・水利といった点も含めて「水環境」史の構築をめざしている。(4)は、朝鮮後期に施行された新税制である大同法を、その運用実態を地方財政との関連に注目しながら研究しているほか、朝鮮初期の財政制度の性格や、朝鮮時代全般にわたる地方財政の運用方式なども研究の対象としている。(5)は日本各地の諸機関に所蔵される朝鮮古文書の調査である。2020年度から2021年度にかけては、新型コロナウイルス感染症流行の影響を受け、韓国での現地調査や文献収集が不可能となったため、研究の進行に多大な支障を生じたが、そのようななかでも特に(3)(4)の課題を中心に研究を進めた。

c 概要と自己評価

まず上記研究課題の(3)については、すでに2010年度から2013年度にかけて「朝鮮半島の「水環境」をめぐる社会・経済・文化の歴史的諸相—漢江を中心として」というテーマで日本学術振興会から科学研究費補助金の支給を受け、次いで2016年度から4年間は、それを発展させた研究課題「朝鮮環境史の創成にむけた河川の管理・利用に関する総合的研究」（基板研究（B）：課題番号16H03486）が科学研究費補助金の交付対象に採択されるなど、科学研究費補助金を得て精力的に研究を進めてきた（いずれも研究代表者を務めた）。当初、後者の最終年度に当たる2019年度末の2020年3月に、この研究課題における成果を公表するシンポジウムを開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染症流行のためこのシンポジウムは中止を余儀なくされた。そこで2020年度は、あらためてシンポジウムを開催する時期を探りつつ、研究成果の補訂を進めた。そして2021年3月、朝鮮史研究会との共催の形で、他の研究分担者も含めた5人の報告者からなる「朝鮮環境史の創成にむけた河川の管理・利用に関する総合的研究」ミニ・シンポジウムをオンラインにより開催することができ、この間進めてきた朝鮮時代の農業水利施設と周辺環境との関係について「環境史からみた朝鮮時代の水利施設—堤堰と川防を中心として—」と題する報告をおこなった。

次に(4)については、岩波講座世界歴史の新シリーズの刊行にあわせ、これまでの研究成果を踏まえ、かつ近年の朝鮮時代史研究における時期区分論とも関連させながら、朝鮮時代の国家財政制度の変容過程をその背景にある経済面での変動との関連から跡づけた論文「朝鮮時代の国家財政と経済変動」を執筆し、同シリーズ第12巻に寄稿した。

このほか、韓国の韓国学中央研究院が主催する国際シンポジウムにおいて、日本国内の大学等における朝鮮史の教育・研究の歴史と現状について整理し報告した。また、河出書房新社の「世界と日本がわかる 国ぐいの歴史」シリーズの1冊として企画された『一冊でわかる韓国史』の監修に従事した。

d 主要業績

(1) 著書

(監修) 六反田豊、『一冊でわかる韓国史』、河出書房新社、2021.11

(2) 論文

六反田豊、「朝鮮時代の国家財政と経済変動」、荒川正晴ほか編『東アジアと東南アジアの近世 一五〜一八世紀 (岩波講座世界歴史 12)』、247-266 頁、岩波書店、2022.3

(3) 学会発表

(国内) 六反田豊、「環境史からみた朝鮮時代の水利施設一堤堰と川防を中心として」、「朝鮮環境史の創成にむけた河川の管理・利用に関する総合的研究」ミニ・シンポジウム (科学研究費補助金研究活動報告。朝鮮史研究会との共催。朝鮮史研究会関東部会 2021 年 3 月例会として開催)、オンライン開催、2021.3.27

(国際) 六反田豊、「일본 대학의 한국사 연구 및 교육 동향 (日本の大学における韓国史の研究および教育動向)」、한국학중앙연구원 2021 년 한국학국제학술회의 「동북아시아 지역의 한국학 연구・교육 동향 (韓国学中央研究院 2021 年韓国学国際学術会議「東北アジア地域の韓国学研究・教育動向」)、韓国学中央研究院 (韓国京畿道城南市 ※ただし海外からの出席者はオンラインで参加)、2021.10.14

3. 主な社会活動

(1) 他機関での講義等

(非常勤講師) 学習院大学、「東洋史特殊講義」、2020.4~2022.3

(非常勤講師) 国際基督教大学、「韓国史」、2020.4~2020.6、2021.4~2021.6

(2) 学会

(国際) 韓国中世史学会 (韓国)、地域理事、2020.3~

(国際) 朝鮮時代史学会 (韓国)、編集委員、2020.1~

(国内) 朝鮮史研究会、編集委員長、2020.10~

(国内) 朝鮮学会、常任幹事、編輯委員、2020.4~

(国内) 韓国・朝鮮文化研究会、副会長、運営委員、編集委員、2020.10~

(3) 学外組織 (学協会、省庁を除く) 委員・役員

(教育機関) 釜山大学校民族文化研究所、『韓国民族文化』編集委員、2020.3~2022.2

(その他) 公益財団法人東洋文庫、研究員 (兼任)、2020.4~2022.3

(その他) NHK 教育テレビ「高校講座世界史」、講師、2020.4~2022.3

(その他) 朝日カルチャーセンター横浜教室、講師、2020.7~2021.3、2021.7~2022.3